



年頭のご挨拶



年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

我が楽生苑はお陰様をもちまして本年 8 月に設立以来 14 年目を迎えます。

去年は 4 月に我が法人の傘下に寿樂園を迎え入れ、早くも一年が経とうとしています。この間、いろいろ難問が発生したこともありましたが、現職員が力を合わせて誠心誠意頑張ってくれたお陰で、何かと軌道に乗ってきました。今、お風呂を改装中である 2 月中旬からは暖かく楽しく入浴出来るようになりそうです。

楽生苑の方もその活動はいよいよ本格的なものとなり、介護の更なるレベルアップを目指してエンジンがかかりつつあります。それというのも、最近入所してこられる要介護者は高齢で、しかも医療的に重症な方ばかり。医療・介護両面にわたってソフト対応が要求されるのみならず、ご容体の悪化を来さないようにそれを予期し対処する沈着さ、機敏さ、綿密さも要求されます。一般的にも、一人一人の入所者に対して、心温まる介護の実施と介護・疾患予防、「薬食同源」のレシピの開発などなどの課題の山を前にして、我が楽生苑の職員は怯むことなく、崇高な目標に向かって一步一步進んでゆこうと、執念を燃やしているところです。

本年も旧年と同様、地域住民の皆様のご期待に応えるべく、楽生苑、寿樂園、各部門の全職員一丸となって頑張りぬく決意です。

地域住民の皆様、行政関連の皆様、医療介護関連施設の皆様、ボランティア団体の皆様、今後とも我が楽生苑をご指導、ご鞭撻、ご援助賜りますよう切にお願い申し上げます。

平成 25 年 1 月吉日

理事長 伊原信夫

施設長 山中康平

職員 一同

捨八先生の世なおし川柳

ちよつと待って せめて採らせて くずがはら 葛野原

ちよつと待って下さい。葛は全草が薬草です。

ブルドーザーで押し潰してしまわないでせめて我々の手で採取させて下さい。

輸入ばかりに頼ることになります。



開業し日毎検食する「医食」



特別養護老人ホーム 楽生苑 増築工事

特別養護老人ホーム 楽生苑 施設長 山中康平

現在、当法人では平成 25 年 3 月のオープンを目指し、特別養護老人ホームの増床工事を行なっています。最近では、常時医療的、認知症ケアが必要になり重症化が顕著になっています。さらに、高齢者の一人暮らし、夫婦世帯や介護者の高齢化などの理由により、自宅での生活が極めて困難で入所希望されている方が増加しています。

このような状況にもかかわらず、当苑以外に入所費用やソフト(介護医療の人材)、ハード両面で重症化に長期で対応できる施設はこの地域にはほとんどないことが実情もあり、地域の要望に応えるべく、全室個室の10床を増床することになりました。



健康福祉祭り

より快適に生活できるように



平成 24 年 11 月 18 日(日)に楽生苑内において初めてせとだ健康福祉まつりを開催しました。

要介護者やその家族、将来介護が必要な地域住民に対して、家でより快適に生活できるように三原福祉サービス様のご協力をいただくことができ、様々な福祉用具、災害グッズなどを用意することができました。日常から緊急時まで役立つ商品を展示し、どこにもない商品・サービスの紹介をおこない、試乗や体験して喜んでいただけたのではないかと思います。今後も地域の高齢者福祉拠点として地域のニーズに応えることができる取組みを積極的に行なっていきます。

今年も5月に楽生苑健康福祉祭りの開催を予定しています！

もちつき



楽生苑の お正月



初釜



初詣



こざくら保育園



世代間交流



瀬戸田高校
インターンシップ



南小学校
3・4年生



林子供会
中野子供会



瀬戸田小学校
4年生



寿 楽 園



新年明けましておめでとうございます

新生福社会の寿楽園となって初めての正月を迎え、関係者の皆様にはお礼申し上げますとともに、本年も変わらぬご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

昨年12月23日には餅つきを行い地元の労働組合から30名もボランティアで来ていただきました。12月26日には入所者の忘年会をして1年間を回顧しながら御馳走をほおばりました。年末には門松を飾り、そして、正月には、お餅をおいしくいただきました。

職員一同、「真ごころ 思いやり 助けあい」を心に刻み常に復唱しながら、この1年間、入所者の支援・介護に努めますことを申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

寿楽園 園長 中根範之



新春

楽生苑ひなたの家

新春一番
利用者さんと
福招き猫を
一緒に作りました



今年もひなたの家は
笑顔いっぱい
元気いっぱい!



ひなたの家 お茶会

福笑いのあとの
一服



楽生苑ひなたの家 今年の目標

『笑顔あふれる生きがいづくり』

楽生苑は

医師が常駐する 介護医療一体型の施設です

医療介護一体型の施設において医療は実際のところ介護の現実にとどの辺まで立ち入ることが出来るか。私たち医師もふと考えることがあります。

例えば、施設の担当医師が要介護入所者一人一人を見回って、今日のお具合はどうかなと声かける、すると、明るい笑顔で元気な挨拶の声が返ってくる、それを聞けば、「まあ、元気だな」ひとまず安心する。ところが、「今日はちょっとフラフラする」という話を聞けば、「えっ、どんなときに?どんな具合に?」と、本人から参考になる話を聞いたり、何か重要な基礎疾患が隠されていないかなど、その場で考えを巡らしながら一通りの診察をし、取りあえず副作用のない簡単な、お薬を投与して注意深くその後の経過をみるという手順になる。深夜になって、翌日そのまた翌日、その人はどうなっているかな、薬が効いたかどうか、いや、待てよ、重症な脳梗塞症の手前の一過性脳虚血発作ではなかったか、その予兆とみるべきか、となると、今から直ちに介入し可能な限り生活改善の指導をしたり、新薬・漢方薬を投与したりして万全を尽くして予防してかからねばならぬ、などと思いを巡らすことになります。

ここで、一般の臨床医が置かれている現実、立ち位置を申し上げねば成りません。ご存じのように、現在の保険医療では、細かい点数表によって医療報酬が決められています。ところが、どこまでが点数に該当する医療行為になるのかどうか、上記のような医師の対応の顛末をみられてお分かりの通り、その線引きは極めて曖昧なのです。しかし、現時点の医療水準で認定された診断基準に照らしてみても大体の基準ないし相場は決まっているので、要領よく点数計算をやれば、国民皆保険の条件の枠の中で医師の報酬は確保されることになっています。ところが、ここに重要な問題が潜んでいる。

その一つは点数評価の問題。医療の現場では一連の医療行為の流れの中で、点数積み上げを目指して、手際よく、効率よく、現行水準の医療をこなしてゆくエンジンがかかっております。医師としても、一人一人の患者さんの予兆（漢方で言う未病）を必要以上に丁寧に診察し、個別的に念入りな生活指導をし、時間をとるよりも、ハイ検査、ハイお薬、ハイ注射、ハイ入院と現時点の診察所見や結果に対しての投薬と指導をハイピッチで回転させる方が患者さんにも喜ばれるし、そうとなれば医師の方もなかなか心得たもので、

大抵現実順応派になってしまう。ところで、医師からのレセプト請求の点数評価は学識サイドばかりでなく、保険者サイドの点検評価もあり、この方は自己鼻眞(ひいき)もあってなかなか手厳しい反面、患者サイドのそれは重要視されていない実情がある。こうして、「要領よく」点数をどんどん積み上げる医療サイドの努力は並大抵のものではなく、確かに医療そのものは充実し、ハイレベルなのですが、一方では、総体的な医療費はうなぎ登りです。次の問題として、介護と医療の社会的評価を比較したい。これは明らかに(先端医療を含む)医療の方に重点があり、資金の流れもいきおい、そちらの方に吸い取られます。介護施設にとってはちょっと辛いところです。一方、実生活の面はどうかと言うと、これはもう物質的、技術的に途方もなく豊かで恵まれた時代的風土の中で人々は翻弄され、常に気忙しい世の中の慣習、一般傾向としてスローフーズよりもファーストフーズ、カロリー過剰の割には栄養アンバランス、大量の熱消費、目先の利便性の追求などなど(その反面、ガス、水道、電気などの基盤整備は災害に際して脆弱極まりない)、住民は多数派的惰性的な生活習慣に浸りきりになり、かくしていわゆる『文明病』の温床ができあがるという次第です。

さて、病院でも経営が大変といわれる時代に、介護施設が水準以上の介護も医療もということになるともっと大変です。最近はまだ、地域のご老人が高齢になり、医療的にも重症になり、介護面でも家族の手に負えなくなり、入所待ちのその果てにやむなく入所してこられる傾向が顕著になってきています。さらに(療養型を含む)病院からも老健からも、重い病気を持った高齢者が退院(退所)してこられます。

我が楽生苑は開設以来、一貫して医療介護一体型であるというからには、一人一人のご高齢者がそれぞれにとって相応しい、かけがえのない余生を送って頂きたいのです(健康長寿であれば申し分ないのですが、そうでなくても家族親戚や親しい友人、ご近所の人、介護職員とのふれあいなどなど)。そのために本苑の医療部門も、具体的には日本人の3大死因と言われる、がん、脳・心臓の梗塞症の予防は言うに及ばず、認知症(進行)予防、感染症の予防と対応などなどに万端の用意を調えなければなりません。現実にはなかなか大変なのですが、多少の困難は覚悟しています。それを乗り越え、介護医療上のこと、薬食同源のことなど、その成果を全国に向かって発信してゆきたいと思います。

そしてゆくゆくは、全国の介護施設のリーダーグループに加わりたいという大きな野望を抱いております。

社会福祉法人新生福祉会 理事長 伊原 信夫
楽生苑診療所 所長